

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 1 年 9月 18日

事業所名:こどもたちの窓Solana(ソラナ:ひだまり)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・落ち着いた様子、量の部屋を用意している。	
	2 職員の配置数は適切である	○		・障がいの特性に見合った職員配置を行っている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・部屋に安全クッションを付け安全面に配慮している。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・月に1度ミーティングを開き、より良いサービスを目指している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者アンケートを実施して「保護者等向け評価表」を作成している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・ホームページを開設したのでそちらで公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・保護者アンケートを実施し評価結果を業務改善に繋げている。	
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・外部研修に参加し、支援に繋げている。研修を受けた指導員は他の指導員と情報を共有している。内部研修も行っている。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・こどもの日々の様子や保護者のニーズ・課題を分析して計画書を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・活動プログラムの内容は毎月のミーティングで意見を出し合い決定している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・こどもたちが様々な経験をつめるよう、長期休みにはイベントを取り入れている。 ・イベント情報をまめにチェックしている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・こどもたちの人数や年齢、特性等に応じて、プログラムの内容を考え提供している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・下校の時間や年齢層に応じた対応を心掛けている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・送迎表や1日の流れを書いたボードを基に確認している。	
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・支援終了後、その日の振り返りを行い、至らなかった点を改善するなど、意見を出し合いより良い支援へ繋がれるよう努めている。		
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・日々の記録を付けることで支援計画のモニタリングに活かしている。		
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・半年ごとのモニタリングで成長過程に合わせて支援計画の見直しを行っている。		

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		・書道をメインに様々なカリキュラムを取り入れている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・内容をよく把握しているスタッフが参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・常に連絡を取り合っている。 ・気になったことがあればこちらから積極的に聞くようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				・医療的ケアが必要な子どもは現在、利用していない。受け入れる場合は密に連携を取るようになる。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・利用を開始する際には、保護者や関係機関から情報収集している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				・学校を卒業した子どもはまだいないがそのような場合、要請があれば保護者同意の基、情報提供を行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・研修を受け、他事業所から連携や支援における助言をいただいている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		・近所の公園へ行ったり、地域のイベント等に参加し、交流を深めている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・積極的に参加し情報の共有に努めている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・連絡帳や送迎時、電話などでも連絡を取り合っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		・会話の中での助言は行っているが、「ペアレント・トレーニング」はしていないので勉強し、質の向上を目指す。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・利用を開始する際には、丁寧に説明をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・送迎時や電話、メール、面談などで助言を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・保護者参加型のイベントを考えたが、集まるは難しいのが現状だった。また交流できる機会を考えたいと思う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・苦情相談窓口を設置し責任者を置いて対応している。苦情があった際には迅速に対応しすぐに解決できるようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月、行事カレンダーを配布している。緊急の場合はお知らせの手紙を渡している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		・鍵付きのBOXIに入れ厳重に管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・保護者には連絡帳にて、その日の様子を伝えている。 ・子どもにはイラストを付け視覚的に分かりやすくしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		・イベントの招待等はしていないが、区民祭り等の地域行事に参加し交流をはかっている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	・内部研修を通して訓練を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	・半年に1回、避難訓練を実施し記録している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	・言葉の投げ掛け方によっては精神的な虐待に繋がることもあるため言葉掛けについては十分に注意している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			・現在、身体拘束は行っていないが、必要な場合は十分に話し合い合意のもと記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	・医師の指示や保護者からの情報に基づいて食物アレルギーのある子どもについては配慮して対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	・「ヒヤリハット」は財産であり、そこから学んだことをより良い支援に繋がられるよう共有している。	